様　式　Ｆ－１９－２

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　９ 月 １８ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）
研究期間：2016～2019
課題番号：１５ＫＫ００６３

研究課題名（和文）17-19世紀南米ラプラタ地域イエズス会布教区の住民名簿に関する歴史人類学的研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）An Historical-Anthropological Study of the Census Records of the Jesuit-Guarani Missions in the Rio de la Plata Region of South America during the 17th-19th Centuries(Fostering Joint International Research)

研究代表者
武田　和久（Takeda, Kazuhisa）

明治大学・政治経済学部・専任講師

研究者番号：３０６３１６２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,300,000円
渡航期間：　６ヶ月

研究成果の概要（和文）：　本研究を通じて、パドロン上のカシケの順列が布教区内でのカシカスゴの序列に相当したこと、布教区内の有力カシカスゴは名簿の初めの箇所で言及されたのに対して、改宗間もないカシケが率いたカシカスゴはパドロンの末尾に記載されたことがわかった。つまりパドロンは、カシケの社会的な威信を反映する鏡であった。またカシケは、布教区内に設けられた街区ごとに居住スペースを割り当てられたが、この街区についても序列が存在したことが解明された。さらに、特定の地図に記されたグアラニの苗字をパドロン上の苗字と比較し、苗字が記された地図上の箇所が布教区住民により世帯ごとに耕作されていた農地に該当することが解明された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
住民名簿を1656-1801年にわたる長期的タイムスパンから分析したことで、スペイン領南米ラプラタ地域に設けられたイエズス会グアラニ布教区（グアラニ先住民キリスト教化のための施設）の組織的な基盤が、グアラニの伝統的な社会組織カシカスゴであったこと、カシカスゴは日々の労働や祝祭、軍事遠征を行う際に活用されていたこと、カシカスゴの活用を通じて布教区が1609-1767年にかけて有機的に機能していたことなどが解明された。

研究成果の概要（英文）：The outcome of this research is as follows: (1) The register order of the Guarani Indian chief (cacique) in the census records corresponds to the social hierarchy of each cacicazgo, political power and range of territory of the chief. The superior cacicazgos were registered in the first part of the census records, but the ones which were ruled by the cacique recently incorporated into the Jesuit Missions appeared at the end of the records. (2) The residential space of each cacique was located by the unit denominated quarter (barrio) and this quarter was also ranked in the Mission. (3) The comparative analysis of the maps in which certain Guarani surnames were drawn and census records reveals that the space in which surnames appeared corresponds to the farmland which was distributed by the unit of cacicazgo (abambae in the Guarani language).

研究分野：ラテンアメリカ史

キーワード：イエズス会士　グアラニ先住民　布教区　住民名簿　カシカスゴ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

本研究は、研究代表者が 2013-2015 年度に取り組んだ科研若手 B「17-19 世紀南米ラプラタ地域イエズス会布教区の住民名簿に関する歴史人類学的研究」（研究課題番号 25871065）を通じての経験と成果を踏まえて立案された。この若手 B では、1609 年から 1768 年にかけて、スペイン統治時代の南米ラプラタ地域（現在のパラグアイ南東部、アルゼンチン北東部、ブラジル南部、ウルグアイからなる領域）でカトリック修道会の一つイエズス会が運営した、総数 30 の布教区と呼ばれた居住地の住民名簿の通時的な分析を進めた。同地域のグアラニ語系先住民のキリスト教化の過程で、イエズス会士は膨大かつ多岐にわたる記録を残したが、若手 B の研究で主たる分析対象としたのが住民名簿だった。名簿は、1656 年から 1801 年にかけての特定の時期にスペイン人官吏が布教区を巡察した際に作成された。その数はおよそ 250、30 箇所の布教区すべてを網羅している。こうした名簿の記載事項を、世帯区分や社会的地位に着目して分類・数値化していったことにより、イエズス会士がおよそ 160 年にわたり布教区で実践したキリスト教布教政策がグアラニに与えた社会文化的インパクトの解明へとつながった。

布教区編入以前のグアラニは、男性家長が一つの家屋に居住する妻子や親族を統率する拡大家族を組織した。布教区にグアラニを編入する際、イエズス会士はこうした複数の世帯のまとまりをカシカスゴと呼び、その統率者をカシケと呼んだ。一つの布教区は複数のカシカスゴの集合体である。

住民名簿は、布教区のこうした社会状況の反映である。名簿にはグアラニの氏名や年齢が世帯ごとに記され、複数の世帯は一つのカシカスゴを形成する。こうした個々のカシカスゴを布教区・年代ごとに整理・グラフ化すれば、一つの布教区内のカシカスゴごとの人口や世帯数の変化が明らかになる。このデータを別の布教区のそれと比較分析することにより、布教区ごとのカシカスゴの特徴が明らかになる。最終的に、30 の布教区全体のカシカスゴの動態が明らかになる。若手Ｂにおけるこうした研究成果はスペイン語論文にまとめられた。

論文脱稿後にさらなる研究の深化を目指して浮上してきた問題が、「カシカスゴの生成、結合、分離、消滅のメカニズム」である。布教区で暮らす全てのグアラニは、出身、年齢、性別、身分に関係なく、必ずいずれかのカシカスゴに所属し、共同生活を営み、農作業やキリスト教年中行事に従事した。つまりカシカスゴは布教区という上部組織を支える下部組織であり、住民の経済・宗教アイデンティティの根幹を形成した。

他方、個々の布教区は異なる自然環境に準じて建設され（森林、山岳、平原、河川の近隣など）、住民も多様なエスニシティから構成されていた。また約 160 年の存続期間、布教区は移転、統合、壊滅など様々な経緯を経てきた。

２．研究の目的

本研究では以上を背景として、自然環境、設立経緯、民族構成が異なり、かつ移転、統合、消滅など様々な経緯を辿った布教区の幾つかをサンプルとして取り上げ、住民名簿と、その他の叙述形式の諸史料を相互補完的に分析することで、布教区の移転、統合、壊滅の過程でカシカスゴに生じた変容を、次の（1）布教区の新設、（2）布教区の消滅、（3）布教区の分離、（4）「異教徒」の布教区への取り込みという観点から解明することを目指した。以下はそれぞれの項目の説明である。

（1）布教区の新設とカシカスゴ

ある布教区が新設される際、グアラニの在来の社会組織がいかなる条件下でカシカスゴとして同定され布教区の下部組織として機能したのか。逆にカシカスゴと同定されなかった社会組織はいかなる扱いを受けたのか。

（2）布教区の消滅とカシカスゴ

ある布教区が消滅し、そこに属していたカシカスゴが別の布教区に統合される際、消滅布教区のカシカスゴは解体され、成員は移住先の布教区のカシカスゴに編入されたのか。あるいは、消滅布教区においてと同様にカシカスゴは維持され移住先の布教区に編入されたのか。

（3）布教区の分離とカシカスゴ

既存の布教区から住民の一部が分離して布教区が増設される際、元の布教区に存在したカシカスゴはそのまま移転されたのか。あるいは、布教区が増設されるのと共にカシカスゴも新たに誕生したのか。

（4）「異教徒」の布教区への取り込みとカシカスゴ

布教区の外にはキリスト教への改宗を拒むことからイエズス会士により「異教徒」と総称された多種多様な先住民集団が存在したが、こうした「異教徒」たちはいかなる条件下のもとで既存の布教区に編入され、カシカスゴに吸収されたのか。あるいは「異教徒」だけからなるカシカスゴが形成されたのか。

３．研究の方法

3 年間にわたった本研究は、アルゼンチン国家科学技術研究会議の専属研究員で、国立サン・マルティン大学で准教授を務めるギジェルモ・ウィルデ博士、またスペイン高等科学研究院イスパノアメリカ研究部門所属のホセ・ヘスス・エルナンデス・パロモ博士と共に推進された。

ウィルデ博士とは 2004 年アルゼンチンのコルドバで開催された第 10 回イエズス会布教区国際会議で面識を得て以来の旧知の仲であり、研究代表者が 2010 年度の 1 年間（日本学術振興会特別研究員の最終年度）、上述の国立サン・マルティン大学社会科学高等研究所の客員研究員としてブエノスアイレスに滞在した時の受入研究者でもある。パロモ博士とは 2010 年以来の関係で、2012-2013 年度セビリアにおいて、研究代表者が日本学術振興会海外特別研究員としてスペイン高等科学研究院イスパノアメリカ研究部門を所属先として研究に従事した際の受入研究者であった。

とりわけウィルデ博士は、歴史人類学を専門とし、スペイン統治期南米ラプラタ地域のイエズス会グアラニ布教区に関する世界的権威であり、研究代表者と多くの点で関心を共有する。また博士は、世界各地で当該分野の研究に従事する専門家の多くと面識があり、また当該分野の研究にこれから本格的に参画していこうとする若手研究者との関係も深い。博士のこうした人脈を生かして、また当該分野の研究が盛んにおこなわれているアルゼンチン、ブエノスアイレスにおいて国際研究集会を定期的に共同で開催していくことで、活発な意見交換を通じて新たな問題提起や関心が芽生えることが予想されるため、本研究ではとりわけ同地において学術交流の場を設けることが重視された。

スペイン、セビリアのパロモ博士に関しては、同博士が属するスペイン高等科学研究院イスパノアメリカ研究部門は、スペイン語圏の歴史研究の世界的な中心地であり、著名な研究者が絶えず訪問してはセミナーや研究会を開催し、活発な議論が展開されている。また同研究部門には専門の図書室があり、アルゼンチンでは入手困難な文献を数多く所蔵している。こうした文献にアクセスしたり、各種セミナーに参加したりすることで、アルゼンチンにおける研究を補助的に支える知見を得られることが期待された。あわせて、セビリアにあるインディアス文書館にはスペインの海外植民地から送られてきた膨大な文書が保管されているが、こうしたセビリアでしかアクセスできない文書を分析するためにも、同市で 30 年以上研究に従事してきたパロモ博士の支援と人脈は、本研究を進めて行くうえでも役立つものと判断された。

４．研究成果

2016 年度

本年度は本研究をこれから深化させていくための基礎固めにあたる活動を重視した。具体的には本研究遂行の要となる住民名簿のデータ化に力を入れた。研究代表者がこれまで国内外で培ってきた人脈を頼りに、データ入力に協力してくれる人材を国内外で確保することができ、その関係者は 30 名以上にのぼった。彼らとは密に連絡を取り合い、1657-1801 年というおよそ 1 世紀半を網羅する原本・複写あわせて 250 にもおよぶ住民名簿のデータ化を包括的に進めていった。2016 年 8 月から 9 月にかけてアルゼンチン、ブエノスアイレスに滞在し、上述のギジェルモ・ウィルデ博士と頻繁に会い、研究打ち合わせを集中的に行った。その際、研究代表者は特に 1657 年に作成された複数の住民名簿の分析結果を踏まえてウィルデ博士と議論を重ねた。同年作成の住民名簿の幾つかには descuido（怠慢、しくじり）と形容された先住民が記載され、それらはいずれも名簿の最後に登場するという共通点があった。その一方で、布教区内で政治や軍事関係の要職に就く先住民の氏名とその家族は名簿の最初の箇所で言及されるという共通の特徴が認められた。このことは、名簿が単なる氏名の羅列ではなく、個々の先住民の社会的な威信を示すことの表われと結論づけられた。また 2016 年 11 月にはイタリア、ブルーノ・ケスラー財団が運営するイタリア・ドイツ歴史研究所の専属研究員フェルナンダ・アルフィエーリ博士と共に国際研究集会に出席し、布教区内にイエズス会士が設けた信心会という宗教組織のメンバーの役割と住民名簿との関係について議論を深めた。2017 年 2 月から 3 月にかけてはドイツ、ハーゲン通信大学歴史研究所のファビアン・フィッシュナー博士のもとを訪れ、イエズス会布教区内部で住民名簿がどのように管理・利用されていたのか、史料論の観点からの研究の可能性について議論を重ねた。

2017 年度

前年度と同様に 8-9 月にかけてブエノスアイレスに滞在中し、この期間はギジェルモ・ウィルデ博士と週に一度のペースで議論を行い、研究の進捗状況を確認した。これと並行して、2017 年 8 月 25 日には国際研究集会「スペイン語圏アメリカの植民地時代のフロンティア地域におけるミッション文化、領域認識、宗教的回心」（Culturas misionales, territorialidad y conversion religiosa en las fronteras coloniales de Iberoamerica）を博士と共同開催した。これ以外の時間は国立文書館で史料調査を行い、滞在先で調査結果をまとめた。国際研究集会への参加者は、アルゼンチン人を中心に、ブラジルやチリ出身の面々が集った。いず

れも、南米南部地域のイエズス会研究を世界的にけん引していくことが期待される人々であった。研究代表者が本国際研究集会で行った具体的な活動は後述のとおりである。2018 年 2-3 月にかけてはスペイン、セビリアに滞在し、インディアス文書館で史料調査を行った。今回は、1657 年住民名簿の欠損部分の複写を依頼すべく、欠損箇所を特定して複写を完了させた。同年の住民名簿はアルゼンチン、ブエノスアイレスの国立文書館にも収められており、これの入手は 2010 年の時点ですでに完了していたのだが、ブラジルの研究者セサル・ペレイラ氏からの指摘により、インディアス文書館が所蔵する同じ 1657 年の名簿には、ブエノスアイレスの名簿には存在しないページが含まれていることがわかった。この指摘を受けて、今回セビリアで史料原本を確認すると、それぞれの布教区の住民の氏名が列挙された後、(1) 布教区の武器庫に収められていた武器の種類と数について記されたページと、（2）住民への課税金額を記したページの二つが挿入されていたことがわかった。こうしたページはブエノスアイレスの史料には存在せず、今回の調査において史料の欠損箇所を補うことができた。こうしたインディアス文書館での調査と並行して、スペイン高等科学研究院イスパノアメリカ研究部門図書室にて本研究の推敲に必要な文献を入手することができた。

2018 年度
これまで同様に 8-9 月にかけてアルゼンチン、ブエノスアイレスに滞在し、国立文書館で史料調査を進める一方、週に 1、2 回のペースでギジェルモ・ウィルデ博士と議論を重ねた。文書館では主に、20 世紀前半の先行研究で言及された史料を実際に請求し、先行研究の見解の真偽を確認すると共に、イエズス会布教区ごとの地図の保管状況や原本・複製の区別などを確認した。こうした成果の一部は、前年と同じくウィルデ博士と共に開催した国際研究集会「スペイン領南米ミッションにおける空間と権力―（ヨーロッパ的）知識、（先住民側からの）応答、（両者の混交によって生じた）循環」（Espacio y poder en las Misiones de la America espanola meridional: saberes, mediaciones y circulaciones）で公にした。この研究集会は前年度と同様に国立サン・マルティン大学社会科学高等研究所を会場として実施された。アルゼンチンでの集会を終えた後はドイツへ渡り、テュービンゲン大学にて二日間にわたる国際研究集会「資源としての先住民知識？－ヨーロッパ・アメリカ間におけるグローバル・ローカル知識の伝播、受容、相互作用、1492-1800」（Indigenous Knowledge as a Resource? Transmission, Reception, and Interaction of Global and Local Knowledge between Europe and the Americas, 1492-1800）をラウラ・ダークスマイヤーならびにファビアン・フェヒナー両博士と共に開催した。

2019 年度
本年度の中核的な研究としては、前年度にドイツで共同開催した国際研究集会で発表された多くの原稿を共編著として出版する活動であった。年度を通じて査読をはじめ多種多様な作業に従事した。寄稿論文 14 本を数え、相当に厚みのある本に仕上がる見込みである（詳細は本報告書の図書を参照）。研究代表者は、上述の編集作業に加えて、本論集に英語論文を寄稿した（詳細は本報告書の雑誌論文を参照）。これは本科研の成果の集大成とも言える論文であり、2017-2018 年度にアルゼンチン、ブエノスアイレスでギジェルモ・ウィルデ博士と共同開催した国際研究集会で行った研究報告の成果を踏まえて執筆された。この論文では、スペイン統治期の南米ラプラタ地域でイエズス会が運営した布教区でキリスト教化したグアラニ語系先住民たちが実践していた地図の製作や管理方法について、研究代表者が 2010 年度以来継続している布教区住民名簿（パドロン）に関する研究成果を踏まえて論じた。特定の地図に記されたグアラニの苗字に着目し、こうした苗字を名簿上の苗字と比較することで、苗字が記された地図上の箇所がグアラニ語でアバンバエと呼ばれる布教区住民が世帯ごとに耕作していた農地に該当することが判明した。またこうした地図が、近隣の布教区と領域争いが生じた際、係争地が当該布教区に歴史的に関係してきたことを示す資料として活用されていたこともわかった。このような研究と並行して、布教区関連の洗礼簿の存在が明らかになり、その記載事項を住民名簿の内容と比較することで新たな研究領域の開拓が見込まれたことを受けて、その成果の一部を 8 月にブエノスアイレスに滞在した際に設けた国際研究集会「領域と循環―カトリック教会と宗教実践の新たなグローバルヒストリーに向けての視角－」（Territorio y circulaciones. Nueva historia global de la Iglesia católica y las prácticas religiosas）で公にし、帰国後の 9 月には国際研究集会で得られたコメントを踏まえて国内で開催の研究会で試験的に発表した。なおウィルデ博士とは 8 月のブエノスアイレスに滞在時に密な議論を行い、またスペイン語の共著論文の執筆も薦めた。この論文は国際的なジャーナルに投稿され、現在査読中である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 Kazuhisa Takeda	４．巻 1
２．論文標題 Los padrones de indios guaranies de las misiones jesuiticas (1656-1801): analisis dinamico y comparativo desde la optica de los cacicazgos	５．発行年 2016年
３．雑誌名 Surandino monografico	６．最初と最後の頁 65-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Kazuhisa Takeda	４．巻 s/n
２．論文標題 Indigenous Knowledge of Land Use and Storage Practices of Historical Documents in the Jesuit-Guarani Missions of Colonial South America: A Comparative Analysis of Maps and Census Records	５．発行年 2020年
３．雑誌名 L. Dierksmeier, F. Fechner and K. Takeda (eds.), Indigenous Knowledge as a Resource: Transmission, Reception, and Interaction of Global and Local Knowledge between Europe and the Americas, 1492-1800	６．最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計12件（うち招待講演　0件／うち国際学会　10件）

１．発表者名 Guillermo Wilde y Kazuhisa Takeda
２．発表標題 Presentacion del encuentro
３．学会等名 Espacio y poder en las misiones de la America espanola meridional: saberes, mediaciones y circulaciones（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Guillermo Wilde y Kazuhisa Takeda
２．発表標題 Configuracion del territorio reduccional: cacicazgo, cartografia y memoria
３．学会等名 Espacio y poder en las misiones de la America espanola meridional: saberes, mediaciones y circulaciones（国際学会）
４．発表年 2018年

1．発表者名 Laura Dierksmeier, Fabian Fechner and Kazuhisa Takeda
2．発表標題 Introduction
3．学会等名 Indigenous Knowledge as a Resource? Transmission, Reception, and Interaction of Global and Local Knowledge between Europe and the Americas, 1492-1800（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 Laura Dierksmeier, Fabian Fechner and Kazuhisa Takeda
2．発表標題 Discussion / Concluding Remarks
3．学会等名 Indigenous Knowledge as a Resource? Transmission, Reception, and Interaction of Global and Local Knowledge between Europe and the Americas, 1492-1800（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 Kazuhisa Takeda y Guillermo Wilde
2．発表標題 Autoridades indigenas en las misiones: hacia una reconstruccion integral de la complejidad
3．学会等名 Workshop: Culturas misionales, territorialidad y conversion religiosa en las fronteras coloniales de Iberoamerica（国際学会）
4．発表年 2017年

1．発表者名 Kazuhisa Takeda
2．発表標題 Teoria y practica de la sucesion del cacicazgo en las misiones jesuiticas: reflexiones sobre padrones de indios guaranies
3．学会等名 Workshop: Culturas misionales, territorialidad y conversion religiosa en las fronteras coloniales de Iberoamerica（国際学会）
4．発表年 2017年

１．発表者名 Tiago Gil, Artur Barcelos, Eduardo Neumann, Kazuhisa Takeda, Guillermo Wilde
２．発表標題 Lanzamiento del proyecto de mapeamiento territorial de las misiones jesuiticas
３．学会等名 Workshop: Culturas misionales, territorialidad y conversion religiosa en las fronteras coloniales de Iberoamerica（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 武田和久
２．発表標題 イエズス会グアラニ布教区における信心会システム（1609－1767）－社会工学的ひとつの実験－
３．学会等名 日本ラテンアメリカ学会第37回大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Kazuhisa Takeda
２．発表標題 The Confraternity System of the Jesuit-Guarani Missions in South America (1609-1767): An Innovative Organization for Social Control
３．学会等名 Tsukuba Global Science Week 2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Kazuhisa Takeda
２．発表標題 Jesuit Spiritual Conquest in Colonial Spanish America: A Joint Military-Missionary Expedition against the “Unfaithful” Indians
３．学会等名 Medieval and Early Modern Religious Histories: Perspectives from Europe and Japan, Third Meeting: Religion and Violence（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Kazuhisa Takeda
２．発表標題 Entre el cacicazgo y el compadrazgo: libros de bautismos y padrones en la administracion territorial y poblacional de las misiones
３．学会等名 Territorio y circulaciones: perspectivas para una nueva historia global de la iglesia catolica y las practicas religiosas（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 武田和久
２．発表標題 イエズス会サンタ・ロサ布教区（現パラグアイ）の洗礼簿と住民名簿（padron）からみるカシカスゴと代父母制度（compadrazgo）の関係
３．学会等名 イベリア・イベロアメリカ文化研究会第74回例会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名 Laura Dierksmeier, Fabian Fechner and Kazuhisa Takeda (eds.)	４．発行年 2020年
２．出版社 Tubingen University Press	５．総ページ数 in press
３．書名 Indigenous Knowledge as a Resource: Transmission, Reception, and Interaction of Global and Local Knowledge between Europe and the Americas, 1492-1800	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ウィルデ　ギジェルモ (Wilde Guillermo)	アルゼンチン国立サンマルティン大学・社会科学高等研究所・准教授	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	エルナンデス・パロモ　ホセ・ヘスス (Hernandez Palomo Jose Jesus)	スペイン高等科学研究院・イスパノアメリカ研究部門・研究員	
その他の研究協力者	フェヒナー　ファビアン (Fechner Fabian)	ハーゲン通信大学・歴史研究部門・ポスドク研究員	
その他の研究協力者	ダークスマイヤー　ラウラ (Dierksmeier Laura)	テュービンゲン大学・学際研究部門・ポスドク研究員	
その他の研究協力者	アルフィエーリ　フェルナンダ (Alfieri Fernanda)	イタリア・ドイツ歴史研究所・専属研究員	